



校長室だより

令和5年度
10月27日
NO. 29

自分の舞台で、自分という主役を演じた 学芸会

秋の陽気に、またコロナ明けを、そして創立150周年記念を祝うように、校庭の桜も、間違えて花を咲かせました。前日の雨で心配していた空も青く澄み、まさに「芸術の秋」が、空いっぱい、秦梨小いっぱい広がり、記念の学芸会となりました。



以前、岡崎市出身で劇団四季俳優の小林さんに、インタビューをすることがありました。リトルマーメイドでアリエルを演じた彼女はオーラに満ちていました。演劇の楽しさを「自分と違う人間として、生きることができること」と語り、その言葉に感動したことを覚えています。けれど主役を演じられるようになるには、並々ならぬ努力があったそうです。台詞が言えなくてはならないし、歌も踊りもできなくてはならない…すべてを完璧にこなせるように、一人練習場で、遅くまで練習をしたそうです。すべてを乗り越え、新しい一人の人として生まれ変わることで、自分自身の「成長」を感じられたのだと言います。

秦梨小の子供たちも、この日に向けてたくさんの練習を重ねてきました。毎日、どこかしこで合唱が聞こえ、体育館では毎時間、子供たちの声が響いていました。時には思うようにできなくて悔しい思いをしたり、気持ちが入らなかつたりした時もありましたが、みんなで一つのものを作り上げる、その責任を背負い諦めずに取り組んできたことで、一人一人、実を結び、「成長」につながったのだと思います。



学芸会の舞台でも46人の俳優たちが、それぞれの役を演じました。今年最後のダンス部の発表は、どの子も自信をもって、体いっぱい使って表現しました。1年生は初めての、2年生は1年生と一緒にやる初めての学芸会でしたが、明るく元気で楽しそうな笑顔は、見る人をも楽しい気分にしてくれました。3年生の劇では楽しく面白い内容で、観客から



この日一番の笑いが起きていました。4年生は独創的な劇で、たくさんのメロスやその内容に、ワクワクさせられました。5年生はたった4人でやる劇とは思えない多くの工夫が施され、一人一人がいろいろな役を楽しんでいる様子が見られました。6年生は劇団四季の劇でテーマ性のある作品に取り組み、その演技はさすが6年生というものでした。全校音楽も秦梨ならではの、全員で行う合唱、合奏は見ごたえ十分で、子供たちの真剣さがひしひしと伝わってきました。



「学芸会」は国語の勉強とも似ています。自分が演じる人物（動物）がどんな状況・状態や、どんな気持ちで話しているのかを読み取るのは、国語の力です。さらにその言葉を、相手に分かるように伝えるのも、国語の必要な力です。そして国語に限らず、言葉を使って人にもものを伝えることは、全ての学習の基本であり、人としての生活の基本でもあります。学芸会を通して、一人一人みんなが自信をもって、自分のことを伝えることのできる、そんな姿をこれからも期待しています。